

「この人」に聞く



近未来コンクリート研究会
代表

十河茂幸氏

「建設業団体の連携を強化するための一人N.P.O.のようなものと思ってもらえば。中国地方の建設業、中でもコンクリートを良くするためのサポートを行ったり、協議の場を提供したい」と語るのは、近未来コンクリート研究会の十河茂幸代

声をかけ、話題ごとに連する団体や参加したい団体でグループ化して協議する。単に大勢集まつてもまとまらないだろう」とする。

耳の早い関係者からは希望が相次ぎ、参加費等がゆえに業界団体組織「當利目的ではないし、

主な要因は「中心であるを聞かれるというが、体になるだろう」とし、「當利目的ではないし、今後各関連団体にも波及

業界団体の連携をサポート 「部分最適」から「全体最適」へ

【近未来・しげゆき】

昭和49年に九州工業大学大学院を修了し、大林組入社。同社技術研究所に37年間勤務したのち、平成23年からは広島工業大学教授を務めた。『コンクリート診断士試験合規指南』など著書多数。昭和23年4月5日生まれの69歳。呉市出身。

十河氏はこれまでの活動の中で「広島県は中国になりにくい業種間の意見交換の場を取り持つ考へ、業種間の連携が薄い。具体的には、「各団ど、仲間からのサポートのトップや事務局長ににも助けられているといふ」と感じていた」と明かす。

近未来コンクリート研究会は、異業種間の連携よりしたくない。必要経費があればよい」とキッパリ。的には「合理的にインフラを延命化・高耐久化す

ており、今後は設計と施工・維持管理を目指す」と笑う。早くから趣向に賛同し、オフィスとセミナールームを提供し適』ではなく、発注者と受注者、異業種の連携もトメンテナンス協会を含めた『全体最適』を目標に据える。

受注者など、対等な協議している(一社)コンクリートメンテナンス協会内、電話082-567-5610)まで。

要に応じて自治体や企業

連する団体や参加したい団体への技術支援等も継続。最後に、関連団体等

連絡会議を開催するこに対しても、「これから

はゼネコンで構成する会(日建連)との周辺団体は諸団体を訪問させてもらうと思うので、ぜひ『全体最適』に協力してほしい。その結果が企業の営利に結びつくことにもなるのでは」と呼びかけた。